

# 福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館 ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2  
都立・第五福竜丸展示館内  
電話 (521) 8494

## 第五福竜丸に想う

森瀧市郎

一九五四年三月一日のビキニ水爆実験の被害は知れば知るほどに大きなものであった。しかしその当時私たちがこれを知ったのは三・一ビキニ実験から半月もたってからのことであった。当時の私の日記を出して見ると

三月十六日(火)「ビキニ水爆実験の灰をかぶりし漁船の乗組員の原爆症発病の報伝わる。ラジオを聞き悲憤やるかたなし。一家おそくまでラジオを聞きつゝ怒る。」

三月十七日(水)「ビキニ水爆、被災漁船の記事。」と記している。

つまり私たち一般国民がこの重大事を知ったのは、第五福竜丸が焼津漁港に帰港した三月十六日のラジオ放送と翌十七日の新聞記事によってであった。それから後は連日、乗組員の病状や放射能汚染のマグロのことがまなましく報道され、「死の灰」の恐怖は全国民を包んだ。

水爆実験反対の運動は署名運動の形で全国にまき起った。広島では原爆惨禍の体験と結びついて「原爆・水爆禁止署名」として展開された。「原爆・

水爆」ということばはいつしか「原水爆」となり「原水爆」と熟して、五月十五日の市民大会は「原水爆禁止広島市民大会」と呼ばれた。そして夏の終り頃にはその署名数は百万を突破した。広島は「百万人署名」と呼ばれて国連に送り届けられた。

しかしその秋、久保山愛吉さんは逝った。「原水爆の犠牲は私をもつて最後としてもらいたい」ということばを残して。その一ヶ月後の十月二十四日(日)の日記に「……午後、久保山氏追悼大会。有田八郎氏代表世話人として弔辞。つゞいて黙禱。つゞいて各界代表弔詞。岸辺福雄八十二翁の熱弁。平野、西園寺氏のあいさつ。都築博士講演「医学上より見たる久保山氏の死」警世の熱弁なり。……」

私が生れる三年前の一八九八年にキューリー夫妻がラジウムを発見した。それから三十六年後の一九三四年に女婿のジョリオ・キューリー夫妻が人工放射能の放出に成功した。それから僅か十一年後の一九四五年に広島・長崎

の原爆となった。ジョリオ・キューリーは原水爆絶対禁止の先頭に立った。一九五七年反核運動の旅で私がジョリオ・キューリーを訪れた時には、既に療養中で会えなかったが、秘書のミシヨオさんと代理のマイエル氏がその意を体してゆきとどいた世話をしてくれた。その翌年(一九五八)の春、原爆乙女の村戸由子さんが訪れた時は病を押して会ってくれたが「私の病気が広島の人たちと同じかも知れない」と言った。その年の夏にジョリオ・キューリーは逝った。私より一才上であった。壮絶な生涯であった。

第五福竜丸に想う時、私は放射能症で逝った二人を追憶しないではおれない。久保山愛吉さんとジョリオ・キューリー。この二人のいのちの叫びを今一度しんげんに聞いて私は自分の怯懦と怠慢を鞭打ちたいと思う。放射能にまといつかれる核時代を断ち切るために。

(第五福竜丸平和協会顧問)



## ひろがる「反核・平和のひろば」

中野区での体験から

斎藤 鶴子

「反核・平和のひろば」が中野まつりに取り入れられてから三年目になる。「音楽のひろば」「反核写真展と映画」「反核作品展」に分れ、私は作品展の係りであった。

反核リボンを張りめぐらし、平和憲法の前文の風呂敷、非核三原則の暖簾、掲示板には第五福竜丸保存に力を尽された前都知事美濃部亮吉氏、原水爆禁止日本協議会初代理事長安井郁氏、現第五福竜丸平和協会会長三宅泰雄氏の色紙にはじまり、区民の平和を願う短歌、俳句、書を展示した。私たち

の最も訴えたいことは反核であり、「未来は私たちだけのものではありませぬ」「未来は私たちにしか守りませぬ」のメッセージが始まる「核のない平和な地球を」であった。

まず、第一番に取上げたのは、「食卓にあがった死の灰」として(1)一九五四年三月一日ビキニで被災した第五福竜丸の汚染、久保山さんの死に続く原水爆禁止運動、いま水爆の生証人としての第五福

竜丸展示館の存在であった。さらには米仏の核実験で被曝を続けている太平洋の島民たちの悲惨について、分り易いように地球儀、地図、写真、グラフなどの視覚に訴えた。(2)は一九八六年四月二十六日、ソ連のチェルノブイリ原発事故であった。

●チェルノブイリから百三〇キロのキエフ(人口二百数十万)の二五万の子供の黒海方面への避難。●ヨーロッパ各地の食品の当時に現在の汚染状況。●日本の輸入食品の問題と、日本の原発の分布図を示し、いま世界の原子力発電は、安全性、放射性廃棄物処理、規制緩和など重大な問題をかかえ、各々にその判断を問われていることを訴えた。

次に◎日本を取巻く核兵器システムについて、「アメリカの極東核戦略」(C-1列島「日本」などの地図を拡大し、日本を基地としての陸海空での一触即発の米ソの対決。

最後に私たち区民が地方自治体

と協力してやってゆける◎非核自治体運動について。日本の非核自治体数千二百以上(自治体数三三〇二)、面積比36%、人口比56%(以上七月調)を円グラフで。憲法擁護・非核中野宣言の全文を掲げ、中野は宣言五周年にあたり区民有志の間で「非核平和条例」

## ビキニ被災を学習して

小林あゆみ(埼玉高校生平和ゼミナール)

ないのです。

私は以前、東京の夢の島に第五福竜丸の見学に行ったことがありますが。その時は展示してある資料などを見てただただその被害の大きさに驚いたのです。今回の学習によって、その時はあまり考えなかった乗組員や、その家族の人たちの苦しみも改めて考えさせられました。彼らの苦しみは並たい

ていものではないのでした。もうあのことは忘れてしまいたいと思う人々がいるのも仕方ないことだと思えます。けれどそんな中、亡くなった久保山愛吉さんの「原水爆の被害者は、私を最後にしてほしい」という言葉がとても強く心に残りました。すべて

の人々がこのことを忘れてはいけ

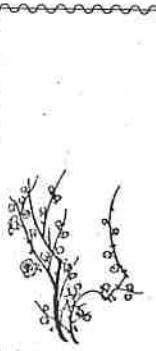
づくりの話し合いが始められていることを展示。

十月三日、四日の日程を終えたが、会場は区民が一番出入りしている区役所の一階であったので、参加者も多く、私たちの訴えは可なりの人に伝えることができたと思っている。(草の実会・協会理事)

もし何かの間違いで発射のボタンが押されたりしたら、第五福竜丸に降った死の灰が、今度は私達の上に降ることになるかもしれないのです。そう考えたら、やっぱり何としても核兵器はなくなさなければ、と思えます。

平和随想 (十)

三宅泰雄



原潜の佐世保への初人港は一九六四年十一月のことでした。政府は原潜寄港に危機感を抱く国民をなだめるため、いちおう、原潜周辺の空中放射線と海水中の放射性物質の測定を行っていました。しかし、これらのモニタリングは、きわめて形式的、かつずさんなものでした。

一九六八年五月六日に、偶然のことから、西日本新聞社の記者が、佐世保港の空中線量記録に異常に高い値(ノイズ)のあることに気付きました。この報道にあわてた科学技術庁は、急遽「専門家会議」(代表者 故山崎文男博士)を召集し、検討を依頼しました。

「専門家会議」は、初めは異常な空中線量は放射能とは関係がなく、レーダーが電気溶接の影響などと、

呑気なことを言っていました。しかし、実地点検の結果、これらの影響が否定されたため、改めて「放射能の疑いが濃い」と、前言をひるがえしました(五月十三日)。

これを受けた原子力委員会も、その翌日、「異常値は原子力潜水艦からの放射能が原因であるとの疑いがあるようである(傍点筆者)と、いかにも歯切れの悪い見解を表明せざるをえませんでした。

一方、異常放射能の発見から七時間後に採水された海水の分析値(日本分析化学研究所担当)を、私たちの研究室で、仔細に点検し直した結果、放射性鉄(半減期四十六日)の存在を確認しました。放射性鉄は原水爆からの「死の灰」の主成分には含まれていないもので、原潜から出る第一次冷却水に特有な放射性核種です。

不思議なことに、私たちがこのことを指摘した翌日から、放射性鉄の存在を証明していた放射能の減衰曲線が急変し、全く得体の知れぬものに豹変してしまいました。当然のことながら、米政府は、「原潜からの液状廃棄物は、日本および国際基準に完全に適合する

ものである」と反論してきました。原子力委員会の有沢広巳委員長代理は、早くも、これを是認するかのうやむやに事を収めようと苦慮していました。

学術会議は問題を重視し、六月十三日に「佐世保の異常放射能をめぐって」のシンポジウムを開きました。その席で猿橋勝子さん(当協会理事)と山崎博士との間でかわされた、放射性核種の存在をめぐる大論争は、今もなお学界の語り草となっています。

私たちは政府にまかせてはおかず、独自に「原潜寄港、汚染問題調査研究委員会」の結成を呼びかけ(六月七日)、自然科学者、人文・社会科学者、二二〇人以上の賛同を得ました(代表者、草野信男博士、現在当協会顧問)。私達は那覇、佐世保、および原潜と無関係な清水港の海水、海底土、魚貝類を入手し研究を進めました。その結果、予想通り那覇港のサンプリングから、原潜の第一次冷却水に特有な放射性コバルトを検出することができました(服部学、道家忠義、藤本陽一の諸博士による)。研究結果は十一月十六日、学術会

議「那覇港の異常放射能をめぐって」のシンポジウムで報告されました。

私たちは分析担当の日本分析化学研究所に対しては、かねてから不信感と疑念を抱いてきました。それを裏づけるかのようになり、一九七四年のはじめになって、放射能測定値のねつ造事件が発覚し、政治的な大問題に発展しました。モニタリングに支障を来したため、原潜の寄港も一時停止となりました。また、データのねつ造に気付かなかった同研究所の千葉盛人理事(化学)が心痛のあまり急死するという悲劇を招きました。

政府は日米安保条約に拘束され、原潜の寄港に支障のないことのみを念じ、放射能分析の結果など、一度も検討してはいなかったのです。政府(当時の科学技術長官は、故森山欽司氏)は問題を糊塗するため、原子力局長を更迭、日本分析化学研に代って、日本分析センターを発足させ、のちに原子力委員会を改組して、原子力安全委員会を新設(一九七八年十月)するなど、苦肉の策を講じることに汲々としていたのです。

原爆線量再評価報告書の意味

服部学

広島・長崎の原子爆弾で、被爆者がどれだけの放射線量をあびたのかということは、被爆者の治療や対策にとっても、また放射線の人体に及ぼす危険度を知るという意味でも、重要な数字だったはずである。しかし軍事機密の厚い壁に阻まれて、この放射線量推定はきわめて不正確なものしか得られなかった。

一九五七年にT57Dという暫定的な線量推定方式が出されたが、これは非常に誤差の大きいものであった。さらに六五年にT65Dという、これまた暫定的な計算方法が提案され、最近まではこの値が使われてきた。しかし八〇年代になって、アメリカの科学者が爆弾の構造や材質についての秘密情報を使って放射線のエネルギー分布などを計算してみたり、日本の科学者がレンガなどに残っていた熱ルミネンスというものを測定したり、日本家屋の構造、当日の大気状況、日本人の体格なども考慮に入れて計算し直したりしてみると

T65Dにも大きな誤まりのあることがわかってきた。

そこで日米の科学者が共同で検討し直した結果として発表されたのが、日米原爆線量再評価検討委員会報告書である。これにもとづく新しい線量評価システムはDS86と名づけられた。この委員会は「現在の科学水準からみて、最良のもの」と信じており、今後大きな変更はないと考える」と述べ、広島島の放射線量影響研究所(旧ABC)に対し、この方式で直ちに被爆者の被爆線量の計算を始めようにと勧告している。

T65DとDS86とは、計算方法もかなり異なっている。T65Dは主としてネバダでの実験データをもとにしていたが、ここで行なわれたのは長崎型の爆発実験であった。実は広島型の方はその後爆発が行なわれていない。DS86では、実験データや広島・長崎での測定データを、計算コードの検証に用いるという方法がとられている。

その結果として、ごく大ざっぱに言ってしまうと、長崎の場合については、中性子もガンマ線も、T65DとDS86とでそれほど大きなちがいはない。ところが広島の場合には、地上距離によって異なるが、ガンマ線はT65Dの二乃至三・五倍、中性子はT65Dの約十分の一という大きな差が出てきた。

これまで、広島と長崎の被爆者の後障害の発生率のちがいを、両都市でのガンマ線と中性子の割合と対応させて、それぞれの放射線の危険度が推定されてきたのだが、広島の中性子が一けたも少なかつたとなると、中性子はごく僅かでも危険なのだということになりかねない。これは原爆などからの放射線の危険度の評価に、今後大きな影響を与えることになると思う。DS86では、広島原爆の爆発威力自体が、T65Dの一・二・五キロトンから一五キロトン(誤差三キロトン)に変わっている。実は私自身は以前から一五キロトンという数字を使ってきた。

またDS86では、長崎の西山地帯、広島の高須地区など、放射性降下物の落下が多かった地域での残留放射能についての推定

も行なわれている。ただし、これらの地区あるいは早期入市者の被爆線量の推定には、実際の行動を知らなければならぬとしている。これは、爆心から二キロの円内などという現在の機械的な判定基準を改めるべきだということになる。刑法では「疑わしきは罰せず」であるが、被爆者援護法では「疑わしきは援護する」でなければならぬと思う。

(立教大学原子力研究所教授 服部学 協会評議員)

高校生の見学相つぐ

十一月六日はさながら高校生デパート、目黒区のトキワ松学園の一年生の女子高校生三百名が午前午後二班にわかれ来館。説明を聞いたあと先生の用意したむつかしい設問用紙に回答を求め、一時間余にわたり見学した。埼玉県福岡高校二年生三百八十名は、前日学校で乗組員大石又七さんの体験を聞き、当日は数班にわかれ館内を見学。被災船の調査を自らの手で、など、高知県高校生の活動の資料にも熱心に見入っていた。